

H29年度山梨市商工会経営発達支援計画

## 事業評価及び見直し結果報告書

# I. 経営発達支援計画事業

## 1. 地域の経済動向調査に関すること【指針③】

売上動向調査・分析、中小企業景況調査、小規模企業景気動向調査、各種調査・分析結果の共有と活用について実施した。商工会基幹システムの事業所データの整備は着手できなかったが、他の調査事業については、ほぼ目標値を達成できた。ただ、商工会内部での情報共有の手法、会議等の開催状況等は不明であり、組織内での実施体制づくりについては、事務局長の指導の下、経営指導員を中心とした情報共有のための体制整備が必要になる。

〔評価意見〕

29年度評価	B	継続・見直し	継続実施
情報共有化のための会議等については、毎月の定例実施が望ましい。また、この機会に経営発達計画の進捗状況、事業担当の割り振りや見直し等を行うことが必要である。			

## 2. 経営状況の分析に関すること【指針①】

金融相談、記帳指導、事業計画策定時に経営分析数値、損益分岐点分析、SWOT分析等を活用して指導を行った。また、専門家の活用により経営実態の把握を行った。ただ、記帳代行業所の経営分析については、ネットde記帳以外の手法で実施している。事業実施状況については、目標値をオーバーする実績となっている。

〔評価意見〕

29年度評価	A	継続・見直し	継続実施
経営分析事業所数は目標をオーバーする件数を実施しているが、ネットde記帳による経営分析結果等を、記帳代行業所にフィードバックするには、記帳専任職員の教育・研修及び支援意識の転換等が必要になる。経営発達支援計画の実施を通じて、商工会の全職員の意識改革を図っていくよう職場の雰囲気作りを行っていただきたい。			

## 3. 事業計画策定支援に関すること【指針②】

事業計画策定の重要性について、事業者への啓蒙・周知等は十分に実施できたものと思われる。事業計画策定事業所数は目標値の約2倍の件数を示している。事業計画策定のための個別相談会は計画値をオーバーしているが、セミナーに関しては、計画の1/4にとどまっている。創業塾の開催は、峡東地域での共同実施として2回開催してきた。

〔評価意見〕

29年度評価	B	継続・見直し	継続実施
セミナーの実施に関しては、本事業初年度であり、事業着手が10月以降になってしまったことも影響していると思われるが、30年度からは、計画的な実施を行ってほしい。創業支援については、市の協力を得て、本商工会独自の創業支援セミナー・個別指導会等			

も計画していくことが必要である。

#### 4. 事業計画策定後の実施支援に関すること【指針②】

事業計画フォローアップ事業所数は44事業所と計画値のほぼ80%を達成できた。この支援結果については、専門家等を活用した実施支援等があったことと思われるが、支援内容、課題解決内容等が不明である。また、創業者への創業後支援については、目標値を下回る結果となっている。経営革新認定企業数は目標値を実現している。

〔評価意見〕

29年度評価	B	継続・見直し	継続実施
事業計画の策定後のフォローアップについては、目標に及ばなかったが、策定支援以上の重要性があると思われる。特に、創業後の支援について市の協力が得られない状況ではあるが、発達支援計画の中での取り組みを検討してもらいたい。			

#### 5. 需要動向調査に関すること【指針③】

店頭におけるニーズ調査については、実施できなかったが、物産展・工業展等におけるニーズ調査、商圈実態調査結果の活用、業種別・品目別の市場の把握については、ほぼ目標を達成できた。

〔評価意見〕

29年度評価	B	継続・見直し	継続実施
店頭におけるニーズ調査については、事業実施が昨年10月以降であったため、準備が間に合わなかったため、実施できなかった。30年度には実施できるものと思われる。本年度のニーズ調査の内容、業種・業態等が不明なため、明確にコメントができないが、業種・業態別に目標を立て、計画的にニーズ調査を実施していくことも必要で、数年後には全業種・業態のニーズの方向性を、商工会として把握することが重要であると思われる。			

#### 6. 新たな需要の開拓に寄与する事業に関すること【指針④】

マスメディア等の後方支援、展示会・商談会等情報提供、展示会・商談会等への出展支援、道の駅アンテナショップへの出展支援、ITを活用した販路開拓、ニッポンセレクトへの登録支援、IT・販路開拓に関する講習会開催等ほぼすべての事業で目標値をオーバーし、計画を大幅に上回った結果となった。

〔評価意見〕

29年度評価	A	継続・見直し	継続実施
販路開拓のためのマスコミ露出、展示会・商談会への出展支援、ITを活用した販路開拓等引き続き支援を行ってほしい。ホームページやSNSでの販促が、スマホを活用した			

販促に転換しつつあり、今年のテーマとして、スマホを使った販路開拓も検討していただきたい。

## II. 地域経済活性化の取組

地域活性化委員会は、準備が間に合わず、29年度は開催できなかったが、万葉歌祭り、笛吹川県下納涼花火大会、新価値創造展2017、観光商談マッチングフェア等において、全全国展開事業で策定したパンフ等を活用し、牧丘地区の巨峰や乙女湖周辺の観光PRを実施した。

〔評価意見〕

29年度評価	B	継続・見直し	継続実施
各事業の実施によって、個々の事業所の経営力向上にどのくらいの貢献ができたのか、評価は難しいと思うが、地域活性化とお題目だけ唱えても、地域は元気にならない。事業者が経営力向上を実感できるような取り組みを期待したい			

## III. 経営発達支援計画の円滑な実施に向けた支援力向上のための取組

### 1. 他の支援機関との連携を通じた支援ノウハウ等の情報交換に関すること

県内商工会、山梨大学、関係省庁、金融機関との連携等を行ってきた。また、創業塾の開催については、峡東地域3商工会の共催にて実施し、指導員も受講するなど、支援ノウハウ等の習得にも努めてきた。

〔評価意見〕

29年度評価	B	継続・見直し	継続実施
山梨大学との連携で習得した知識を、事業者の製品開発等にどのような形でマッチングできたのか、成功事例等があれば、地域事業者にアピールしてほしい。金融機関との連携については、継続して取り組んでほしい。			

### 2. 経営指導員の資質向上に関すること

職員の複数体制によるOJTの推進以外の研修会参加、支援会議の開催、支援内容の共有化等が実施されなかったか、実施されても十分なものではなかった。経営指導員ばかりでなく、記帳専任職員、補助員も経営発達支援事業は商工会が実施しなくてはならない事業であることを認識し、この事業を遂行するためのノウハウ・知識を習得する必要がある。経営指導員だけの事業ではないことを商工会内部で認識することが必要である。

〔評価意見〕

29年度評価	D	継続・見直し	継続実施
<p>事務局長のリーダーシップの下、年間の研修計画を策定し、全職員の中小企業大学校の1～5日間コースの受講等を検討してもらいたい。また、職員の複数体制によるOJTについては、経営指導員と記帳専任職員、補助員との複数体制でのOJTも検討してほしい。組織は、最終的にその職員の「資質」に依存する。研修への参加は最優先事項である。</p>			

### 3. 事業の評価及び見直しのための仕組みに関すること

商工会マネジメント委員会の設立及び事業の進め方等に関する会議は開催されたが、中間評価、年度評価、評価結果の公表等は実行されていない。PDCAサイクルを回すとなれば、計画(P)がどのように実施されて(D)いるのかの中間報告がなければ、評価(C)ができないので、修正行動(A)も取れないことになる。

〔評価意見〕

29年度評価	E	継続・見直し	継続実施
<p>H29年10月ごろからの事業スタートであり、様々な準備が整わない状態での事業開始であったため、商工会マネジメント委員会はほとんど機能してこなかった。H30年度からは、中間評価も行える体制を整備してほしい。</p>			

## 〈 総合評価 〉

経営発達支援事業については、H29年7月の事業採択ののち、マネジメント委員会の設立、事業計画の確認、実施方針の決定等を経て、10月ごろから本格的な事業実施となったものである。このため、各事業の目標値に対しては十分達成できたものもあるが、着手できなかった事業もあった。しかし、全体的には、この短期間に、計画された事業の主要な項目は実施できたものと思われる。

## 〈 来年度に向けた課題 〉

経営発達支援事業は、経営指導員だけで取り組めばよいという事業ではなく、商工会の本来事業である経営改善普及事業と同等な商工会が行うべき事業である。この点について商工会の合併等による職員定員の削減もあり、経営指導員だけで実施できる事業ではなくなっている。事務局全職員で取り組む体制づくり、事業分担の公平化等を今年の目標にしてももらいたい。また、創業支援等への市の協力度が他市町村と比べて低い、市への協力要請等も併せて行っていただきたい。